



平成30年11月1日

大原小学校校長室



文責 千々和 道隆

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	<ul style="list-style-type: none">• 全体的に全国平均をやや上回っており、無回答は一問もなかった。• 「話すこと・聞くこと」に関しては正答率が高いが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については課題が見られた。慣用句の意味や漢字など基礎的・基本的な内容の習熟を図る必要がある。
国語B	<ul style="list-style-type: none">• 全体的に全国平均を上回っており、無回答率も低かった。• 「書くこと」に関しては特に正答率が高かったが、「話すこと・聞くこと」に関してはやや課題が見られた。計画的な学級会の実施など、話し合い活動の充実を図る必要がある。
算数A	<ul style="list-style-type: none">• 全体的に全国平均を下回っているが、無回答は一問もなかった。• 「量と測定」「数量関係」について特に課題が見られる。数直線や線分図、関係図などを用いて式と図を関連付ける活動を充実させ、理解を深める必要がある。
算数B	<ul style="list-style-type: none">• 全体的に全国平均をやや下回っているが、「数と計算」領域以外の領域は全国平均と同程度かやや上回っている。また、記述式の問題についても無回答率は低かった。• グラフの読み取りについては特に課題が見られた。算数科はもとより、社会科・理科の学習とも関連付けながら、複数の資料からの読み取り等について指導の充実を図る必要がある。
理科	<ul style="list-style-type: none">• 全体的に全国平均をやや下回っている。記述式の問題については全国平均と同程度で、無回答は一問もなかった。• 科学的な思考・表現に関する問題に課題が見られた。実験の結果を分析して考察する過程において、自分の考えをしっかりと表現する活動を充実させるなど、指導の工夫を行う必要がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

- ・家庭での学習習慣について、依然として課題があるが、計画を立てて学習することや1日あたりの学習時間については改善傾向にある。
- ・睡眠時間が安定していないことやテレビゲームの時間の多さについて課題があるが、平日平均で1時間以上ゲームをする児童の割合は減少した。
- ・地域や社会の出来事に関心をもっている児童の割合や地域や社会をよくするため何をすべきか考える児童の割合は全国平均を大きく上回っているが、ボランティア等の経験など、実際の行動にはつながっていない。
- ・自分にはよいところがあるという自尊感情や将来の夢や目標をもっている児童の割合は増加傾向にある。学校行事等、今後も一人一人が輝く機会を意図的に設けるとともに、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○ これまでの取組の継続

本校は、これまでに様々な取組(給食時間の補充学習・ノート見本掲示・校内漢字検定・M I Mの取組・家庭学習チャレンジハンドブック活用)を行っているため、少しずつ成果として表れているものとする。この取組を継続して行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っていく。

○ 教科の取組

- ・国語科の授業において導入時に漢字や慣用句の復習を毎時間行うなど、基礎的・基本的な事項の一層の習熟に努める。
- ・算数科の授業において線分図や関係図など、図を用いて考える活動や図と式を関連付けて説明する活動の充実を図る。また給食時間中のきらきら教室や少人数指導の充実により、個に応じた指導の充実を図る。
- ・理科の授業において実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する活動を充実させる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 家庭学習(自主学習)の充実

学校の授業以外に勉強している時間が増えてきたが、二極化しており、宿題を行うだけにとどまっている児童も多い。3年生以上の全児童に自学ノートを配布しているため、家庭学習チャレンジハンドブックを活用しながら、自分で計画して学習に取り組むことができるようになっていく。宿題の内容を見直し、自学の力を高めていくために、継続して自主学習の取り組みを推進し、保護者への啓発活動を行っていく。

- ・児童が自主的・計画的に学習できるよう、今後も学年に応じた家庭学習チャレンジハンドブックの活用を図る。
- ・地域やPTAと連携し、児童が地域のために活動する機会を設けることで、自尊感情の向上に資する。
- ・学校だよりや保健室だより、学年通信などによって児童の生活習慣についての実情を周知するとともに、PTAと連携した取組を行い、課題の改善につなげる。